

## 1. はじめに

診療ガイドラインは、特定の臨床状況のもとで適切な判断を下せるよう支援する目的で体系的に作成された文書と定義され、我が国でも多くの領域で診療ガイドラインを整備する研究事業が本格化している。脳血管障害の領域では、くも膜下出血（平成13年厚生科学研究班，主任研究者：吉峰俊樹），脳梗塞（平成13年厚生科学研究班，主任研究者：福内靖男），脳出血（平成14年厚生科学研究班，主任研究者：篠原幸人）に関するガイドラインが相次いで策定され，これらは出版と財団法人日本医療機能評価機構（通称名Minds：Medical Information Network Distribution Service）のWEBにより一般公開されており，さらにこれらは，日本脳卒中学会，日本脳神経外科学会（日本脳卒中の外科学会），日本神経学会，日本神経治療学会，日本リハビリテーション医学会の5学会と厚生労働省の脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の3研究班の合同委員会が策定した脳卒中治療ガイドライン2004に発展し，2009年には改訂が予定されている。

脳血管内治療は近年急速に発展を遂げ，脳動脈瘤コイル塞栓術，頸動脈ステント留置術，急性再開通療法をはじめ脳血管疾患の治療法として欠くことのできない治療法となり，上記ガイドラインでも血管内治療に関して，検討の対象となった期間に発表された論文に基づき一定の記述がある。科学的根拠に基づく診療ガイドラインでは，高いエビデンスレベルとコンセンサスが求められることは言うまでもないが，常に新しい機器器材が開発され，新しい知見が得られている血管内治療に関しては，科学的根拠の蓄積と治療の進歩に無視できないギャップが生じているのが実情である。

循環器病研究委託費研究班（17公-1，「カテーテルインターベンションの安全性確保と担当医師の教育に関する指針（ガイドライン）作成に関する研究」）は，我が国における脳血管内治療の担当医師教育と専門医制度の発展，標準的治療の確立に資する目的で，頻度の高い疾患を中心に診療指針を策定することを目標とした。そこで，（財）国際医学情報センターの支援を受けて文献をシステムティックにレビューし，科学的根拠に基づいた指針の策定に利用したが，これは脳卒中・くも膜下出血・脳ドック各ガイドラインが採用したものと同一システムで，一部のデータをそれぞれの研究班の協力を得て共有した。一方，刻々と変化する医療状況を把握し，それを指針策定に生かすべく，研究班では（財）臨床研究情報センターの支援を受けて日本国内の脳神経血管内治療に関する登録研究：Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy（JR-NET）を行った。この研究から得られた適応，手技，結果に関する我が国の実態は，指針策定や今後の課題を明らかにする役割を果たした。これらを基に，研究班では，比較的頻度の高い，脳動脈瘤・脳動脈解離・脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻・頸動脈狭窄症・頭蓋内動脈狭窄症・急性脳動脈閉塞を取り上げ，指針を策定した。カバーできなかった領域および総論的指針は，改訂時に盛り込む予定である。

すでにMindsのWEBでも表明されている通り、「医療における意思決定は常に統合的に行われるべきものであり、医師は、経験・知識・技術をベースとして、最新の医学的知見も考慮し、医師としての倫理的な規範に照らして十分に妥当性の高い治療法の選択肢を患者に提示し、患者の要望を配慮しつつ医師と患者の合意の上で方針が決定される」ものである。「診療ガイドラインに記載されている最新の医学的知見に基づく推奨は、医療における意思決定を縛るものでは決してなく、意思決定を支援するものとしての正しい位置づけを、医師と患者の双方が十分に理解する」必要があることを是非再確認していただきたい。

我が国で、脳神経領域の血管内治療（カテーテル治療）に関してまとまった診療指針が策定されるのは、これが初めての試みである。この指針は2008年までの論文報告に基づいて作成されているが、使用器材の改良や技術の発展、新しい知見が常に蓄積される脳血管内治療領域の指針は、今後も常に改訂しなければならず、ここに記述された内容やコンセンサスは短期間に変化する可能性が高いことを強調したい。JR-NETに協力していただいた日本脳神経血管内治療学会専門医各位に厚く御礼を申し上げるとともに、さらに継続的な登録の重要性を認識した。また、本指針に関する忌憚のない意見を収集し、我が国の脳神経血管内治療に関する指針がより良いものになるようその活動を継続しなければならないと感じている。ご意見ご質問は事務局までメール（[ibri-net@fbri.org](mailto:ibri-net@fbri.org)）またはFAX（078-306-0768）でお寄せいただきたい。なお、本指針は、循環器病研究班（17公-1）が策定したもので、日本脳神経血管内治療学会および同機関誌編集委員会は、JNET増刊として発刊することを認めたが、その作成および内容に関与していないことに留意していただきたい。